

「人権」を考えると学校が楽しくなる!(^ ^)!

12月は、1948年(昭和23年)12月10日の国連総会で「世界人権宣言」が採択されたこともあり、全国的に人権週間となっています。(人権“習慣”でもいいのですが・・・)

12月4日から12月10日までの1週間を「**第73回 人権週間**」と定めており、県下でさまざまな啓発活動がおこなわれます。

《啓発活動重点目標》 ～人権啓発キャッチコピー～

「『誰か』のことじゃない。」



強調事項17項目

(1) 女性の人権を守ろう	(10) 刑を終えて出所した人に対する偏見や差別をなくそう
(2) 子どもの人権を守ろう	(11) 犯罪被害者とその家族の人権に配慮しよう
(3) 高齢者の人権を守ろう	(12) インターネットによる人権侵害をなくそう
(4) 障害を理由とする偏見や差別をなくそう	(13) 北朝鮮当局による人権侵害問題に対する認識を深めよう
(5) 部落差別(同和問題)を解消しよう	(14) ホームレスに対する偏見や差別をなくそう
(6) アイヌの人々に対する偏見や差別をなくそう	(15) 性的指向及び性自認(性同一性)を理由とする偏見や差別をなくそう
(7) 外国人の人権を尊重しよう	(16) 人身取引をなくそう
(8) 感染症に関連する偏見や差別をなくそう	(17) 東日本大震災に起因する偏見や差別をなくそう
(9) ハンセン病患者・元患者・その家族に対する偏見や差別をなくそう	

実は 障害者週間 も始まっています

12月初めに人権週間があるからか、あまり知られていないのが「障害者週間」です。1995年に定められましたが、なぜ12月3日～12月9日の1週間かというと国際障害者デーであり、障害者基本法の公布日でもある12月3日から障害者の日である12月9日までの1週間としたそうです。(これは、障害者基本法第7条第2項で決められていることなのです。)

この週間は、国民の間に広く障害者の福祉についての関心と理解を深めるとともに、障害者が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的としています。

※平成28年4月から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」も施行されています。

家族や地域の人にも「人権週間」や「障害者週間」を知らないことがあると思います。多くの人にみんなが知らせて人権について考えることができればいいですね。

また、人権について「誰か」のことではなく、紫原中にいる友達や自分のこととして考えてみると、人権が身近になります。そして、その考え方が増えると、すごく居心地の良い楽しい紫原中学校になると思いますよ。「紫原中のこと」「友達のこと」「家族のこと」「自分のこと」として考えてみるいい機会にして下さい。

気軽な助け合いができる社会をめざして

香川県 土庄町立土庄中学校 1年 篠原 和誠

僕は、生まれつき脳性まひという病気のため、車いすで生活している。車いす生活では不便なことが多いのだが、時々、温かい気持ちになることがある。

それは、毎週通っているリハビリに行くためにバスに乗ろうとした時のことだった。いつもは運転手さんが手伝ってくれるのだが、その日は、車いすに気がついた乗客のおじさんが、すぐさま、「手伝おうか？」と声をかけ、車いすを持ち上げてくれたのだ。バスを止め、かけつけた運転手さんも座席を上げ、車いすを置くスペースを作ってくれた。無事バスに乗れたことにほっとしていると、後ろに座っていたおばさんが、「これ、もらい物やけど食べて。」

とかしわもちを僕の手へ渡してくれた。一人暮らしだと言っていたおばさんは、僕を見て、離れて暮らすお孫さんのことを思い出したのかもしれない。しかし、全く見ず知らずの僕に、こんなに優しくしてくれる人がいるのかと驚いた。思いやりは伝染するのか、こんなやりとりがあったバスの中は、いつもより穏やかな空気に包まれ、居心地がよかった。ほんの三十分ほどのできごとだが、僕の心も温かくなった。

この日は本当に気持ちのよい一日だったが、こんな日はかりではない。バスや電車の乗客に露骨に嫌な顔をされたり、バスの運転手さんがうまく介助できなかつたりして悲しくなることもある。僕のような車いすの人も、健常者と同じように心配や遠慮することなく生活できないものかと考えていたところ、先日テレビで車いすユーザー寺田ユースケさんのニュースを見た。寺田さんは「車いす押してくれませんか？」と声をかけ、車いすを押ししてもらいながら全国を回る車いすヒッチハイクの旅をしている。

寺田さんは、僕と同じ脳性まひのため歩くのが不自由だが、健常者に負けたくないと思われ、杖を使って生活していた。

しかし、両親のすすめで二十歳の時から葛藤しながらも車いすに乗ると、想像以上の自由に感動し、世界が広がったようだ。そして、「体が動く間に、新しい世界を観る旅がしたい。」という気持ちが芽生えた。また、旅の中で「車いす押してくれませんか？」とお願いすることで、町の中に「気軽な助け合い」を広められるかもしれない。さらに車いすだけでなくベビーカーやご年配の方など、生きづらさを感じている全ての人が気軽に「助けて」と言えるような世の中にできたら……。と考えるようになったようだ。今では四百組以上の人に車いすを押ししてもらいながら、三十を超える都道府県を三年かけて回り、今年四月には香川にも来ていた。

僕は寺田さんのことを知り、僕と同じ障害のある人がこんなに壮大なチャレンジをしていることに驚いた。僕は、いつも人に遠慮をしてしまい、なかなかお願いできない。相手に迷惑をかけてしまうのではないかと思うからだ。しかし、寺田さんは知らない人ともすぐに仲良くなり気軽にお願いをする。僕もそのような明るく前向きに人と関わる姿勢を見習いたいと思った。また、寺田さんから、社会をよくするためには、ただ心の中で思うだけではなく、それを行動に移し、まわりの人に働きかけたり理解してもらったりすることが大切だと学んだ。

今までの僕は、健常者に負けたくない、同じように見てほしいという思いのあまり、自分勝手に、人への感謝の気持ちが欠けていたように思う。中学校では、校舎のあちこちにスロープがつけられ、僕が生活しやすいように段差もなくしてもらった。フェリーにはエレベーターがつき、行く先々でいろいろな人が声をかけてくれる。僕は、まわりのたくさんの人に支えられながら生きているのだ。

では、僕は支えてもらうだけの存在なのだろうか。家族は十三年間僕を支え続けてくれているが、僕も家族の支えになっている（はずだ。）両親は特に口には出さないが、手のかかる僕を愛おしんでくれているのはよくわかる。僕は三つ子で、二人の弟たちに宿題を教えることだってある。そう考えると、一方的に「支える」ということは、ないのではないだろうか。誰かの存在が誰かの支えになる。「お互い様」で人間関係は成り立っているのだ。

だから、僕は素直に「助けて。」と言おう。そして、それを当たり前だと思うのではなく、してもらったことに対して素直に「ありがとう。」と言える人になりたい。困ったときは「お互い様」だ。僕も困っている人がいたら、力になりたい。身体を使って助けることは難しいけれど、相談になら乗れる。僕だって誰かの「大切な存在」になりたいのだ。助けて助けられて、感謝する。それが僕ができる「気軽な助け合い」の第一歩だ。